

令和 7 年度中予保健所運営協議会の開催結果

1 会議の名称

令和 7 年度中予保健所運営協議会

2 開催日時

令和 7 年 11 月 13 日（木） 15:00～16:30

中予地方局 7 階 大会議室（松山市北持田町 132）

3 出席者等 委員 17 名（うち代理出席 3 名）、事務局 24 名

傍聴者数 0 人

取材の有無 なし

4 議事

（1）保健所の概要について

（2）保健所の主要事業について

①保健所における学生等の臨地実習について

②松山構想区域地域医療構想について

③感染症対策マネージャー養成事業について

④精神障がい者地域交流事業について

⑤食の安全・安心対策について

⑥環境保全・廃棄物対策について

中予保健所の主要事業等について各課から説明した。

（3）意見交換等

主な質疑、意見は次のとおり。

○健康づくり計画等について

（委員）

久万高原町では、今年度、令和 8 年度から 12 年間にわたる健康づくり計画を策定しており、中予保健所の健康増進課長にも委員として参加いただいている。

久万高原町は人口も少なくなりつつある一方で、それ故に高齢者から子どもに至るまで、相手の顔がよく見えるところもあるので、皆様方が生きがいと誇りを持って暮らせるようなその人たちに即した健康づくり計画をしっかりと作り上げていきたい。

○自殺対策について

（委員）

久万高原町の自殺者数は近年減少しているが、なお 0 に近づけなけれ

ばいけないと思っている。管内の状況はどうか。

(保健所)

管内の自殺者数は、平成 19 年の 46 人をピークに、令和 2 年には 18 人にまで減少した。しかし、コロナ禍の影響もあって増加し、令和 4 年には 41 人、5 年は 24 人、6 年も 24 人と、管内全体ではようやくコロナ前の水準に戻ったところ。

女性や子どもを含む若者の自殺が減少しておらず、自殺は追い込まれて亡くなると言われており、市町と足並みをそろえて自殺予防にしっかりと取り組んでまいりたい。

○管内の保健、健康、衛生の広域連携等について

(委員)

砥部町は約 2 万人の町で、そこまで多い職員数ではなく、保健師が中心となって、保健衛生に関して全力でやっているものの、やはり県のバックアップがあってスキルアップもでき、計画策定もスムーズに進んでいると感じている。

中予保健所等と連携して行っている事業について、精神障がい者の地域交流事業では、管内の各市町や、精神障がい者の方、その家族、ボランティアグループ等が交流し、なかなかそういった方々と触れあう機会がない学生や、地域の方も巻き込んでいこうという、非常に前向きなイベントも実施している。

その他、自宅で暮らす難病患者への支援や防災カードの作成などにも協力いただいて取り組んでいる。小さな町なので、オール愛媛で、そして中予圏域のしっかりとした連携が不可欠であると思っているので、引き続きサポートをお願いしたい。

(保健所)

管内の市町の職員や住民の皆さんと共に、少しでも健康水準、健康寿命が伸びて健康づくりが進むよう引き続き努力して参りたい。

○犬や猫の問題について

(委員)

地域猫に関しては、砥部町でも助成等の取組みを行っているが、多頭飼育の犬、猫に関する権限がなく、町だけでの根本的な改善は困難であるので、問題解決のために保健所の積極的な介入をお願いしたい。

(保健所)

動物愛護センターとも協力して指導をしているところ。今後も引き続き指導していきたいと考えているので、御協力をお願いしたい。

○看護師不足等について

(委員)

○救急医療の適正利用の啓発について

(委員)

救急搬送患者のうち軽症者の割合が全国に対して高いと報告されている。この割合をいかに下げていくか、医師会だけでなく、行政も地域も一緒になって、救急車の適正利用や救急相談窓口「#7119」の活用などの啓発活動を行っていただきたい。

○高齢者医療について

(委員)

中予圏域は厚生労働省の地域医療構想の推進区域になっているが、高齢化社会においてもいかに健康寿命をのばしていくかという課題は避けては通れない。保健所を含め地域の行政においても、地域住民が健康な生活を続けられるよう、フレイル予防や健康寿命の延伸について啓発をしていただきたい。